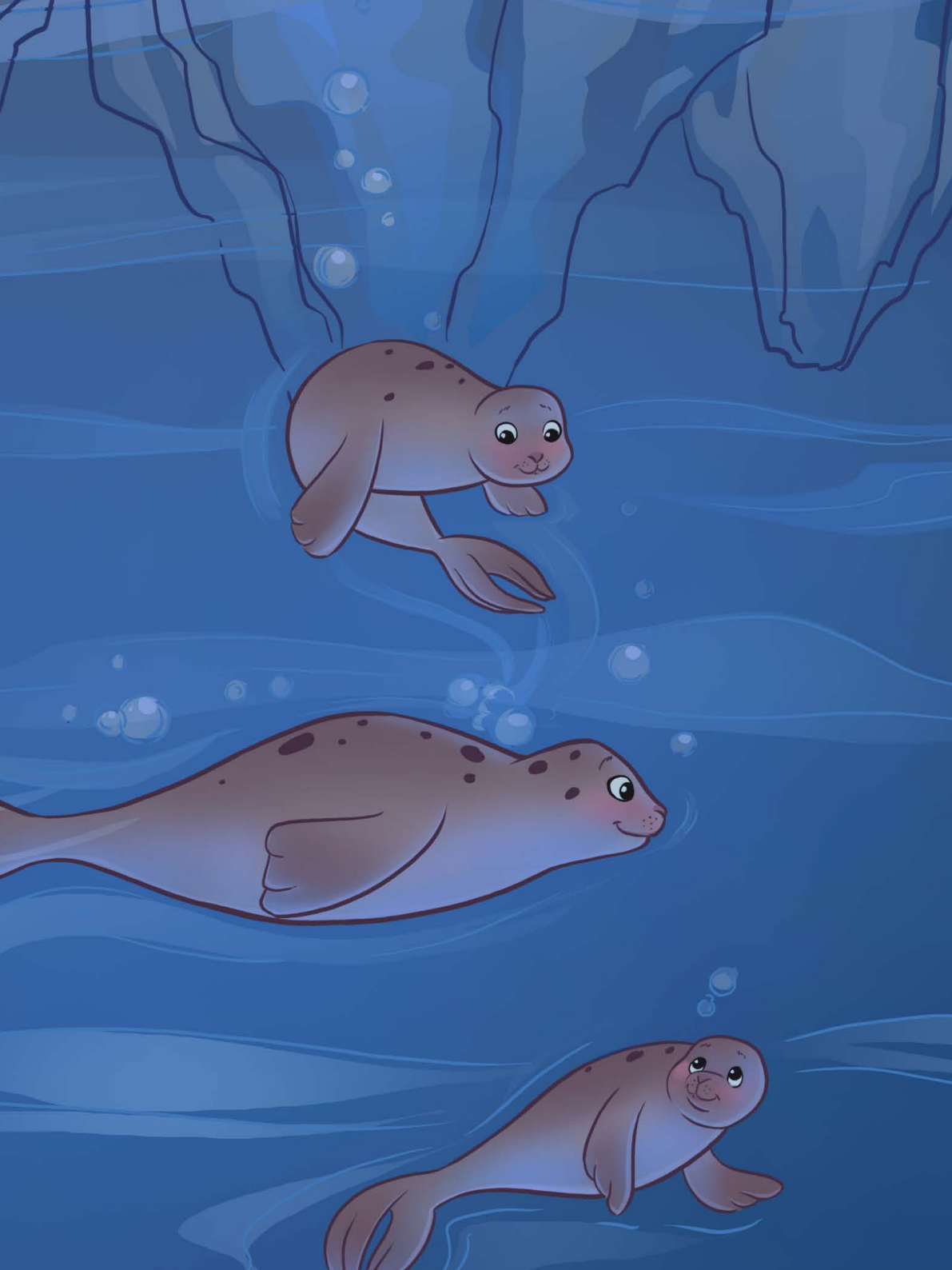


# アザラシの ショーン、ジャチと であ 出会う





ショーンは、泳ぎが得意なアザラシの子。

氷の上でも、すべる速さはピカイチ。

水の中をすべるように泳ぐようすは、

まるで高速潜水艦。

おばあちゃんアザラシたちもビックリして、「おや、まあ！」

だけど、ショーンには問題がある。

すぐに言いつけに従わないことがあるんだ。

ママに呼ばれたり、何かをするように言われても・・・

あれあれ！ ショーンは後回しにしちゃうんだ。

本当は、ショーンはいい子になりたいんだけどね。

だけど、泳いだり遊びまわったりするのが

楽しくてしょうがない。

それで、友だちが「もっと遊ぼうよ」と言うと、

ショーンは「そうだね、ママに言われたことは、

遊んだ後にやればいいのか」って思っちゃうんだ。

ショーンには、学ぶべき教訓があった。

ある日、そのことを身にしみて学んだんだ。

ショーンが、友だちと速泳ぎ競争をやっていた時のこと。

シャチの家族がこっちへやって来た。



(シャチは、ものすごく <sup>しょくよく</sup> 食欲のおうせいな <sup>いっしゆ</sup> クジラの種類で、  
アザラシが <sup>だいこうぶつ</sup> 大好物なんだ！)

それで、シャチを <sup>み</sup> 見たママは、すぐさま <sup>みず</sup> 水から <sup>と</sup> 飛び出 <sup>だ</sup> した。  
そして、ショーンを <sup>よ</sup> 呼んだんだ。

だけど、ショーンは <sup>こ</sup> ついて来 <sup>こ</sup> なかった。

<sup>はやおよ</sup> 速泳ぎ <sup>きようそう</sup> 競争に <sup>む</sup> 夢 <sup>ちゆう</sup> 中 <sup>だ</sup> ったんだ。

ほかの <sup>こ</sup> 子 <sup>みず</sup> たちは <sup>と</sup> 水 <sup>で</sup> から <sup>およ</sup> 飛び出 <sup>つづ</sup> したのに、ショーンは <sup>およ</sup> 泳 <sup>つづ</sup> ぎ続 <sup>け</sup> けた。

せまりくる <sup>きけん</sup> 危険 <sup>にも</sup> も <sup>む</sup> とん <sup>ちゃ</sup> ちゃ <sup>く</sup> でね。

ショーンのママは、<sup>いの</sup> 祈 <sup>はじ</sup> り始 <sup>め</sup> めた。

わが子 <sup>こ</sup> が <sup>きけん</sup> 危険 <sup>む</sup> に <sup>とっしん</sup> 向 <sup>しん</sup> かって <sup>しん</sup> 突 <sup>しん</sup> 進 <sup>し</sup> ている！

<sup>おお</sup> 大きな <sup>おお</sup> シャチ <sup>の</sup> の <sup>ぱ</sup> パ <sup>ぱ</sup> パ <sup>は</sup> は、<sup>もう</sup> もう <sup>すぐ</sup> すぐ <sup>そこ</sup> そ <sup>こ</sup> こ

<sup>かれ</sup> 彼の <sup>なか</sup> お腹 <sup>が</sup> が <sup>ゴ</sup> ゴ <sup>ロ</sup> ロ <sup>と</sup> と <sup>おと</sup> 音 <sup>を</sup> を <sup>た</sup> た <sup>て</sup> て <sup>い</sup> い <sup>る</sup> る <sup>の</sup> の <sup>が</sup> が <sup>き</sup> 聞 <sup>こ</sup> こ <sup>え</sup> る

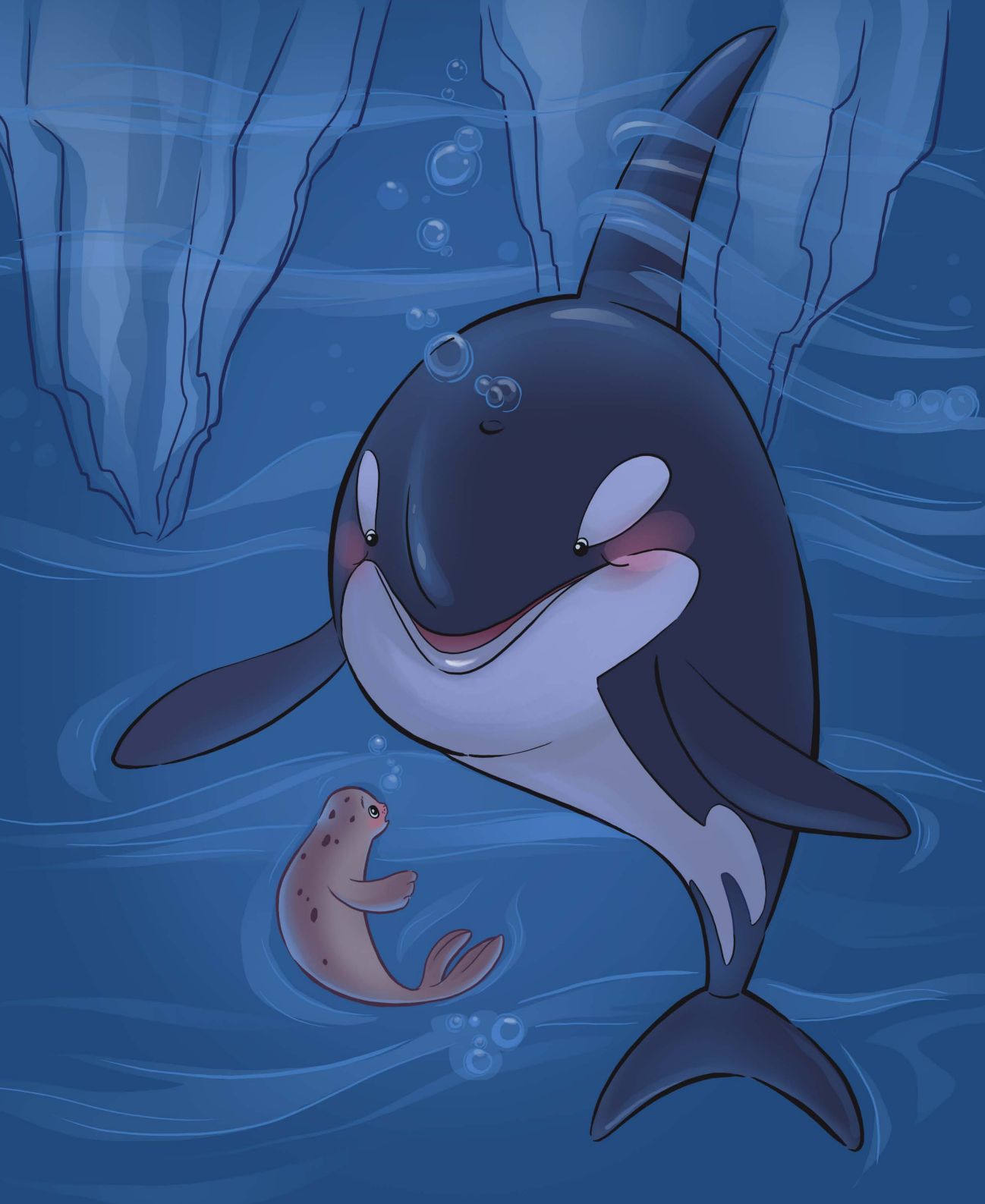
ショーンは <sup>しょうめん</sup> シャチ <sup>の</sup> の <sup>ぱ</sup> パ <sup>ぱ</sup> パ <sup>に</sup> に <sup>しょう</sup> 正 <sup>めん</sup> 面 <sup>しょう</sup> しょう <sup>と</sup> と <sup>つ</sup> つ

<sup>お</sup> お <sup>ど</sup> ど <sup>ろ</sup> ろ <sup>き</sup> き <sup>の</sup> の <sup>あ</sup> あ <sup>ま</sup> ま <sup>り</sup> り、<sup>み</sup> 身 <sup>うご</sup> 動 <sup>き</sup> き <sup>ひ</sup> ひ <sup>と</sup> と <sup>つ</sup> つ <sup>で</sup> で <sup>き</sup> き <sup>な</sup> ない

「<sup>い</sup> マ <sup>ま</sup> の <sup>い</sup> 言 <sup>う</sup> う <sup>こ</sup> こ <sup>と</sup> と <sup>を</sup> を <sup>き</sup> き <sup>い</sup> い <sup>て</sup> て <sup>い</sup> い <sup>れ</sup> れ <sup>ば</sup> ば <sup>よ</sup> よ <sup>か</sup> か <sup>っ</sup> っ <sup>た</sup> た。」

シャチと <sup>はな</sup> 鼻 <sup>はな</sup> と <sup>はな</sup> 鼻 <sup>を</sup> を <sup>あ</sup> つ <sup>き</sup> き <sup>あ</sup> わ <sup>せ</sup> せ <sup>な</sup> な <sup>が</sup> が <sup>ら</sup> ら、<sup>い</sup> シ <sup>ョ</sup> ョ <sup>ン</sup> ン <sup>は</sup> は <sup>い</sup> 言 <sup>っ</sup> っ <sup>た</sup> た。





すると、シャチが ほほえんだ。  
そして、<sup>わら はじ</sup>笑い始めさえ したんだ。  
「わたしにも、<sup>おとこ こ</sup>男の子が いてな。」  
シャチが やさしそうに <sup>い</sup>言った。  
「君と <sup>きみ おな</sup>同じことを <sup>まな</sup>学んでいるんだ。」

<sup>しんぱい</sup>心配するな。だが、この <sup>きょうくん</sup>教訓は しっかりと  
<sup>おぼ</sup>覚えているんだぞ。  
<sup>い</sup>言いつけには、すぐ <sup>したが</sup>従うことだ。  
パパや ママが すぐにと <sup>い</sup>言ったら、  
それには <sup>りゆう</sup>理由がある。  
ぐずぐずしてたら、<sup>きけん</sup>危険なんだ。」

そう <sup>い</sup>言うと、<sup>おお</sup>大きな シャチの パパは  
<sup>およ</sup>泳ぎ去って行った。  
ショーンは、<sup>こころ</sup>心から <sup>しゅ</sup>主を ほめたたえたよ。  
そして、この <sup>きょうくん</sup>教訓を <sup>おぼ</sup>覚えていられますようにと  
<sup>いの</sup>祈った。  
そして、シャチに <sup>よ</sup>良い <sup>ちゅうしょく</sup>昼食があるようにってね。